

【生薬名】 烏薬 *LINDERAE RADIX*

【起源植物】 テンダイウヤク *Lindera stryifolia*



【科名】 クスノキ科 Lauraceae

【別名】 天台烏薬

【薬用部分】 根

【主成分】 精油

【薬性】 気味は辛温、帰経は脾肺腎膀胱に属す

【効能】 ●行気止痛・散寒温腎

●芳香性健胃薬、鎮痛薬、悪心腹痛特に下腹部の張る痛みによい

●腹部の鎮痛薬として神経性胃腸炎、腸管癒着による腹痛、腹鳴、泥状便などに1日5~10gを水400mlで煎服する

●下半身を温め、気のめぐりを良くし、痛みを鎮めるのを応用で、小腸ヘルニア、副睾丸炎などの下半身の痛み、月経痛に他薬に配合する

●不老長寿の薬として枸杞子などと一緒にお茶代わりに煎服する

●葉はリウマチ性関節炎や打撲に外用

●葉は健胃薬として1日4.5~9gを煎服

●

【出典】 ●中悪、心腹痛、蠱毒、疰忤、鬼氣、宿食の不消化、天行疫瘴、膀胱と腎の間の冷気が背脊を攻衝するもの、婦人の血氣、小児腹中の諸虫を主治する（開宝本草）

【備考】 ●健胃整腸・腸蠕動促進作用は木香に勝る

【処方例】 ●天台烏薬散一脱腸、副睾丸炎など

●烏薬順気散一気のめぐりが悪いため起る四肢痛、麻痺、頑固な肩こり